



子育て世帯へのアウトリーチ支援 全国状況調査

# 目次

調査背景や目的	・・・	3
調査概要	・・・	4
調査項目	・・・	5
調査結果(まとめ)	・・・	6
詳細の調査結果 - 自治体調査	・・・	7
詳細の調査結果 - 団体調査	・・・	15
APPENDIX	・・・	24

# 調査背景や目的

## 調査背景

こども宅食等のアウトリーチ支援は、令和5年12月閣議決定「こども未来戦略」でも困難を抱える家庭のSOSの早期発見・見守り施策として明記されるなど、重要性は増している。

更なるこども宅食の普及促進のため、こども宅食の認知向上・魅力訴求を行うべく、全国のこども宅食に関する状況の把握が必要となる。

## 調査目的

こども宅食の普及を加速させるべく、下記3点を重点的に把握する：

- こどもへの各種支援手法の浸透状況（こどもに対する福祉の主要な支援手法についての認知、興味関心、検討・導入状況、予算規模等）  
⇒ **こども宅食の浸透状況を相対的に把握し、全国の浸透度を理解する**
- こども宅食のイメージ（民間団体従事者に対して、こどもに対する福祉の主要な支援手法についてのイメージを聴取）  
⇒ **こども宅食のイメージを相対的に把握し、今後の自治体・民間団体への訴求ポイントを明確にする**
- 自治体の福祉課題（こども食堂等の福祉サービス視点ではなく、各自治体のこども福祉分野の現状の優先度の高い課題等）  
⇒ **自治体に対して、今後より適した提案が出来るように基礎情報を得る**

# 調査概要

<u>調査対象</u>	<p>[自治体調査] 日本の自治体（全47都道府県の1,747市区町村）において、下記部署に勤務されている担当者：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• こどもや子育て支援、児童福祉に関する部署</li><li>• （こどもや子育て支援以外の）保健・福祉や障害に関する部署</li><li>• 地域協働や市民活動に関する部署</li></ul> <p>[団体調査] NPOや社会福祉法人等の子育て支援に関わる民間団体の担当者</p>
<u>調査方法</u>	マクロミル社のQuestantを利用したWEBアンケート
<u>調査期間</u>	2024年10月2日(水)～2024年11月18日(月)
<u>設問数</u>	<p>[自治体調査] 13問</p> <p>[団体調査] 15問</p>
<u>回収数</u>	<p>[自治体調査] 400件 *回答率13.7%（アクセス数 2926件）</p> <p>[団体調査] 628件 *回答率21.5%（アクセス数2919件）</p>

# 調査項目

## 自治体調査

全自治体共通	Q1. 都道府県名、Q2. 自治体コード、Q3. 所属部署、Q4. 連絡先メールアドレス等
	Q5. 各活動の取り組み状況（こども食堂/こども宅食/フードバンク、パントリー/ホームスタート/子ども第三の居場所）
「こども宅食」未実施自治体向け	Q6. 「こども宅食」非実施理由
「こども宅食」導入検討・ 実施自治体向け	Q7. 「こども宅食」予算の財源
	Q8. 「こども宅食」実施の主目的
	Q9. 「こども宅食」実施の予算規模
「こども宅食」実施自治体向け	Q10. 「こども宅食」実施に関するWebサイト
	Q11. 「こども宅食」実施団体
全自治体共通	Q12. 「支援拒否ケース」へのアプローチに関する課題感
「支援拒否ケース」に課題感あり自治体向け	Q13. 「支援拒否ケース」に対する具体的な課題感と実施している取り組み

## 団体調査

全団体共通	Q1. 都道府県名、Q2. 団体所在地、Q3. 団体種類、Q4. 活動規模、Q5. 主要事業、Q6. 連絡先メールアドレス等
	Q7. 各活動の認知状況（こども食堂/こども宅食/フードバンク、パントリー/ホームスタート/子ども第三の居場所）
	Q8. 各活動のイメージ
	Q9. 「宅食等訪問見守り」の実施状況・実施意向
「宅食等訪問見守り」未実施・非意向団体向け	Q10. 未実施・非意向理由
「宅食等訪問見守り」意向団体向け	Q11. 実施時の課題や悩み
「宅食等訪問見守り」実施・意向団体向け	Q12. 期待する成果
「宅食等訪問見守り」実施団体向け	Q13. 支援世帯数
	Q14. 「宅食等訪問見守り」実施に関するWebサイト
全団体共通	Q15. 「他者からの支援を受けづらい状況にある」子育て家庭や子どもに関する課題感・取り組み

## 調査結果（まとめ）

### ■子どもへの各種支援手法の浸透状況（自治体、団体調査両方より）

自治体、団体調査両方において、**最も浸透している子どもへの支援手法は“こども食堂”**という結果となった（自治体調査だと実施割合、団体調査だと詳細の取り組み内容認知割合が最も高い）。“こども宅食”は、自治体、団体調査両方において、“こども食堂”“フードバンク/パントリー”に次ぐ結果となる。“こども宅食”実施における阻害要因として、自治体側は**情報/ノウハウ、人手/人材、財源の不足**、また団体側においては**行政のバックアップ、課題感や負担感、人手/人材、資金、情報/ノウハウ不足**が挙げられる。

### ■こども宅食のイメージ（団体調査より）

“こども宅食”は、“子育て世帯の安心感につながる”“今後より一層必要とされる活動”といった重要性を認識されており、取り組み内容をより詳しく知っている人の中では、“子育て世帯の安心感”“市民の孤立防止、つながりづくり”“児童虐待の発見や予防”“地域の課題に込めている”といった活動のポジティブな効果を理解している結果となった。“こども食堂”は“地域に根付き親しみがある”“世間の関心が高い”“周囲の地域でも導入”という項目が特に高いことから**現在広く浸透し身近な活動**というイメージを確立しているのに対し、“こども宅食”は、**今後より必要とされる取り組みで、子育て世帯の安心感につながる**というイメージで独自のポジションを築いている。

“こども宅食”において“**多くの物資や資金が必要**”“**行政バックアップが必要**”といったイメージ項目が上位に挙がる点は今後の改善ポイントだと考えられる。

### ■自治体の福祉課題（自治体調査より）

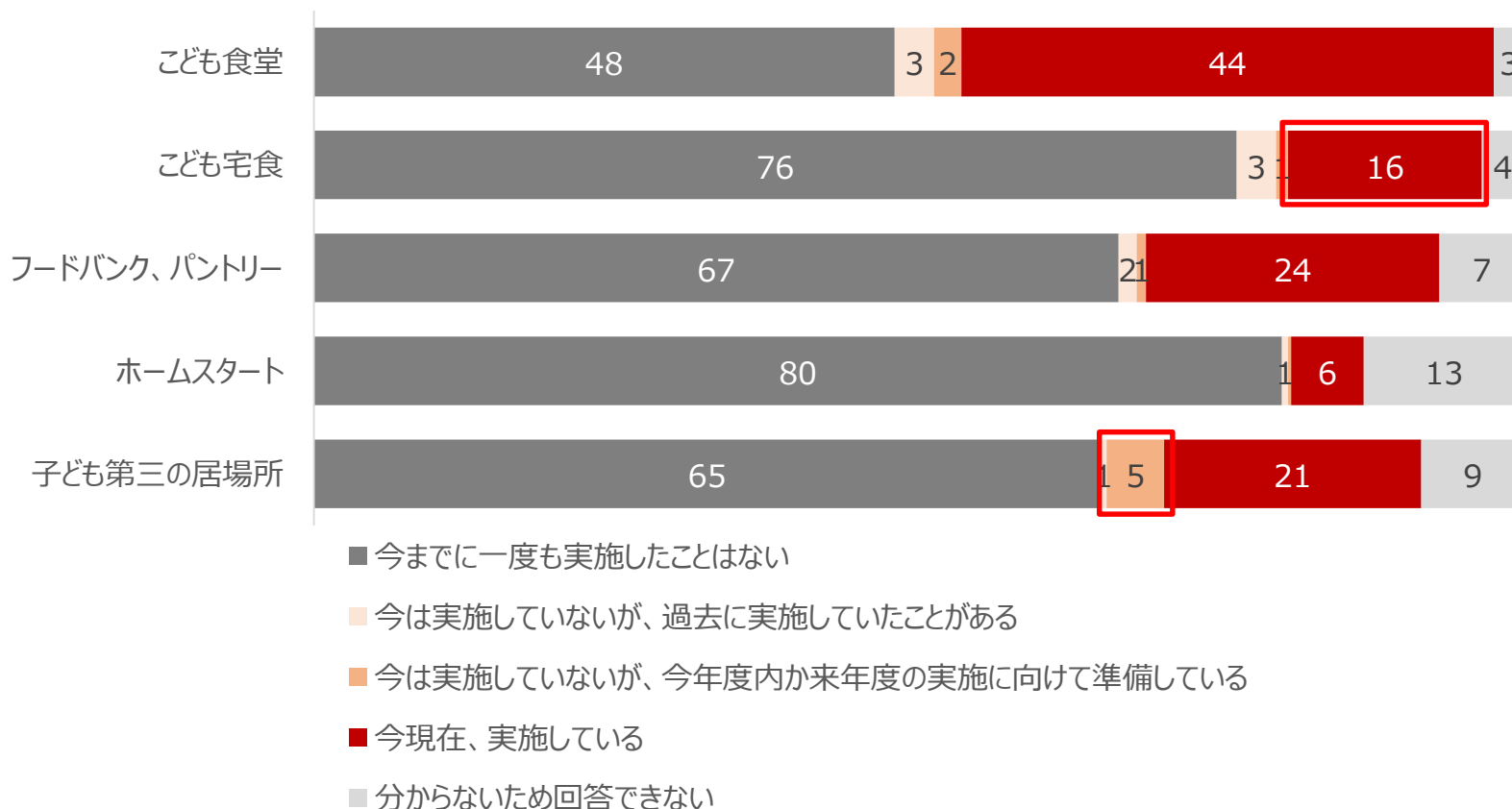
「支援拒否ケース」に課題感ありと回答した自治体向けに、自由回答で具体的な課題や取り組みを聴取したところ、“**発見**”段階における課題感（例、“断固とした支援拒否”“こどもの状況把握の困難さ”“家庭への接触の難しさ”）と“**見守り**”段階における課題感（例、“信頼関係構築の難しさ”“多分野にわたる複合的な課題”）が見られる。そのため、現在取っている取り組みとして、“**発見**”段階だと**接触機会を増やす**こと（例、食料提供を通じて訪問のきっかけを作ったり、電話や手紙の利用、面談など、状況に応じた多様な方法）、“**見守り**”段階だと**アプローチ方法の改良**を取り組んでいる（例、学校や保育園等の所属機関や他部署と情報を共有し、連携して家庭にアプローチ）と回答があった。

# 自治体調査

## 各活動の取り組み状況

日本全国全ての自治体から回答があったわけではなく、あくまで回答協力者ベースとなるが、“こども宅食”の現在の実施状況は、“こども食堂”“フードバンク/パントリー”“子ども第三の居場所”に次ぐ結果となっている。“子ども第三の居場所”の今年度内もしくは来年度の実施予定の割合が高い点から、本活動の今後の更なる広がりの可能性が予想できる。

(n=400,単位%)

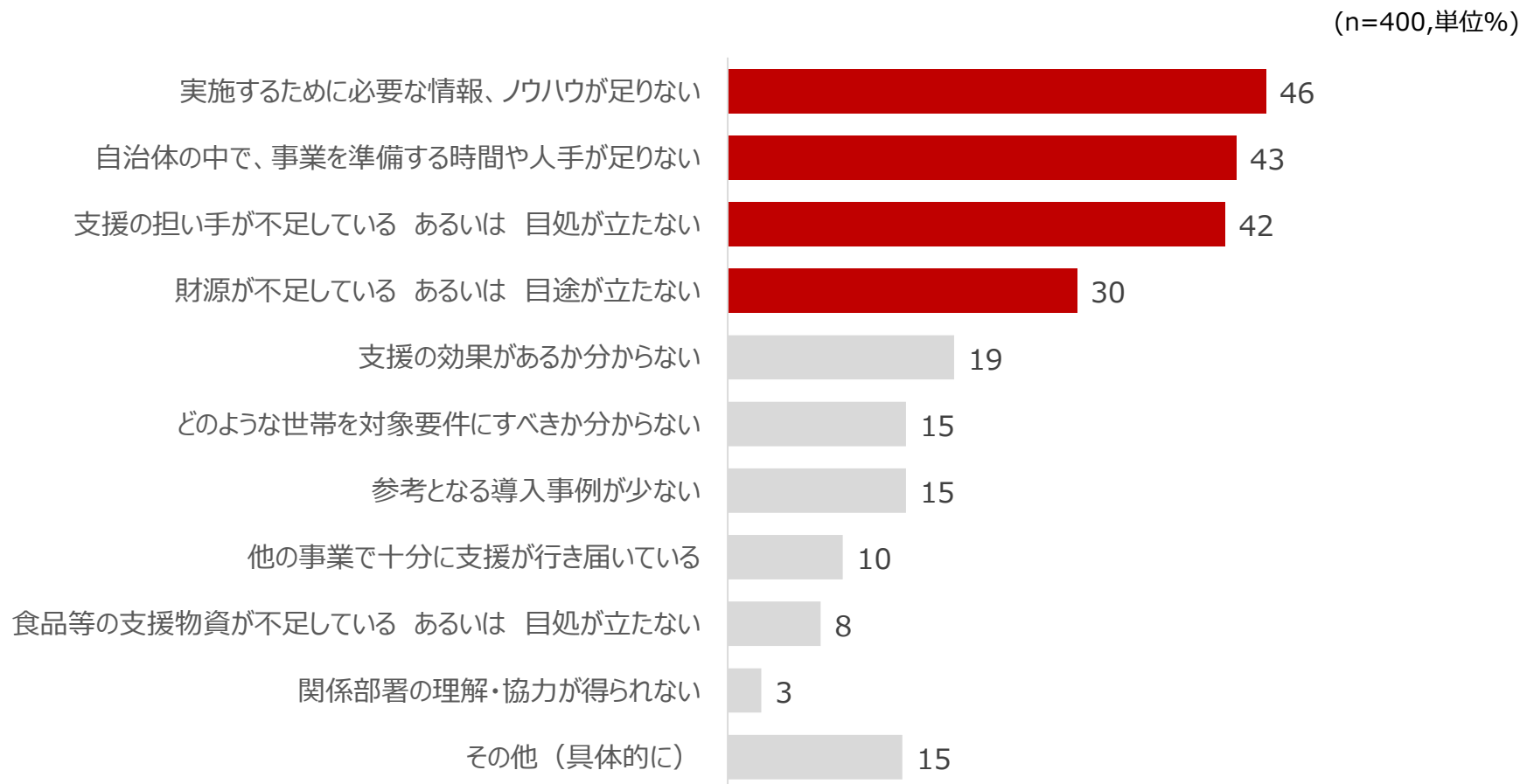


Q5.貴団体で、以下の各活動に取り組まれているかお答えください。  
[設問形式：各項目単一回答、母数：全対象者]



## 「こども宅食」非実施理由

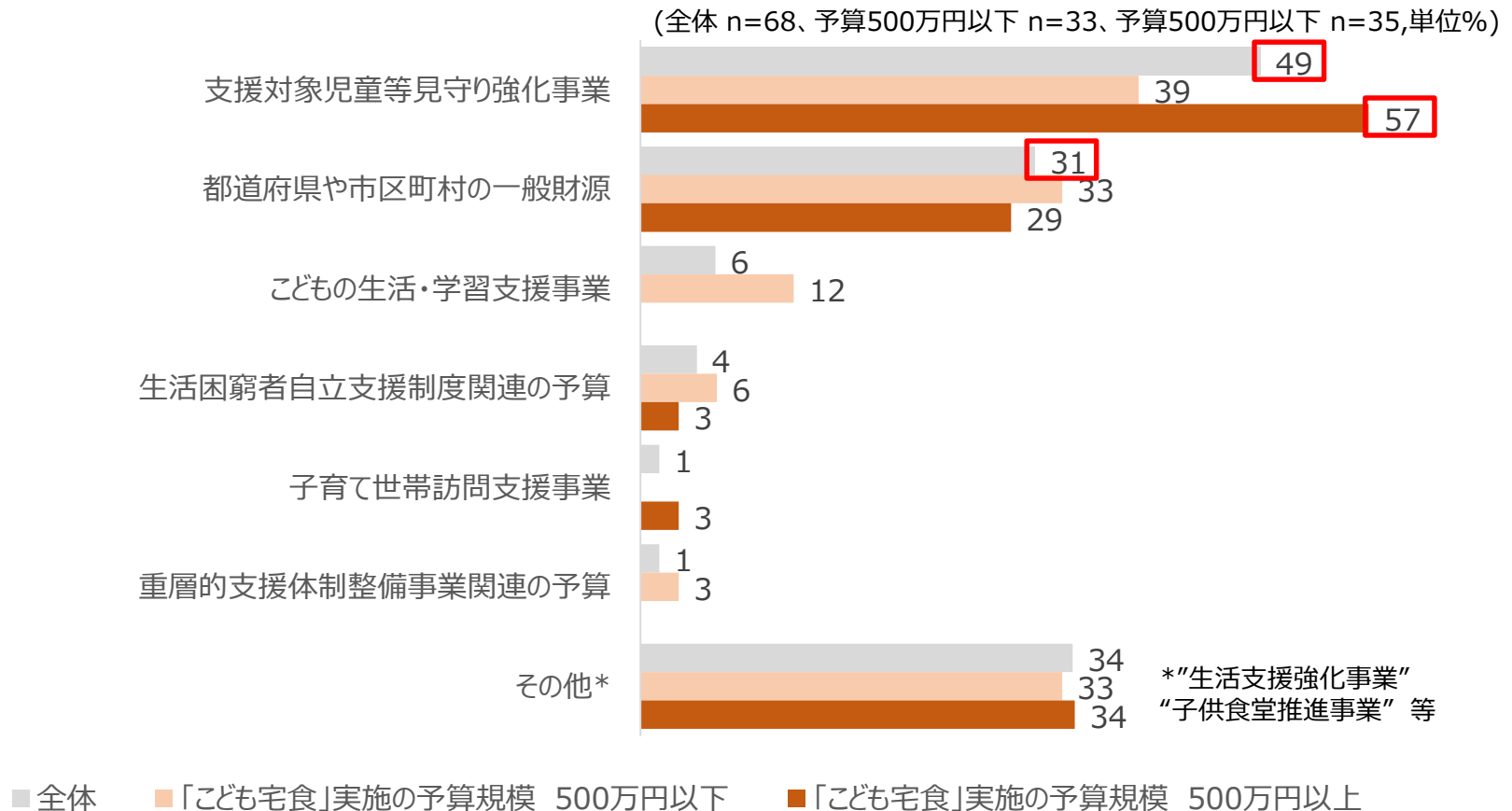
必要な情報/ノウハウ、人手/人材、財源の不足が、「こども宅食」実施を阻害する主な理由として上位に挙がる。



Q6.貴団体で、現在「こども宅食」に予算措置を講じていない理由として、あてはまるものを全てお答えください。  
[設問形式：複数回答、母数：「こども宅食」未実施自治体]

# 「こども宅食」予算の財源

全体で見ると“支援対象児童等見守り強化事業”と“都道府県や市区町村の一般財源”が、主な「こども宅食」の予算財源となっている。「こども宅食」実施の予算規模で比較すると、500万円以上だと“支援対象児童等見守り強化事業”の割合が過半数を超える。

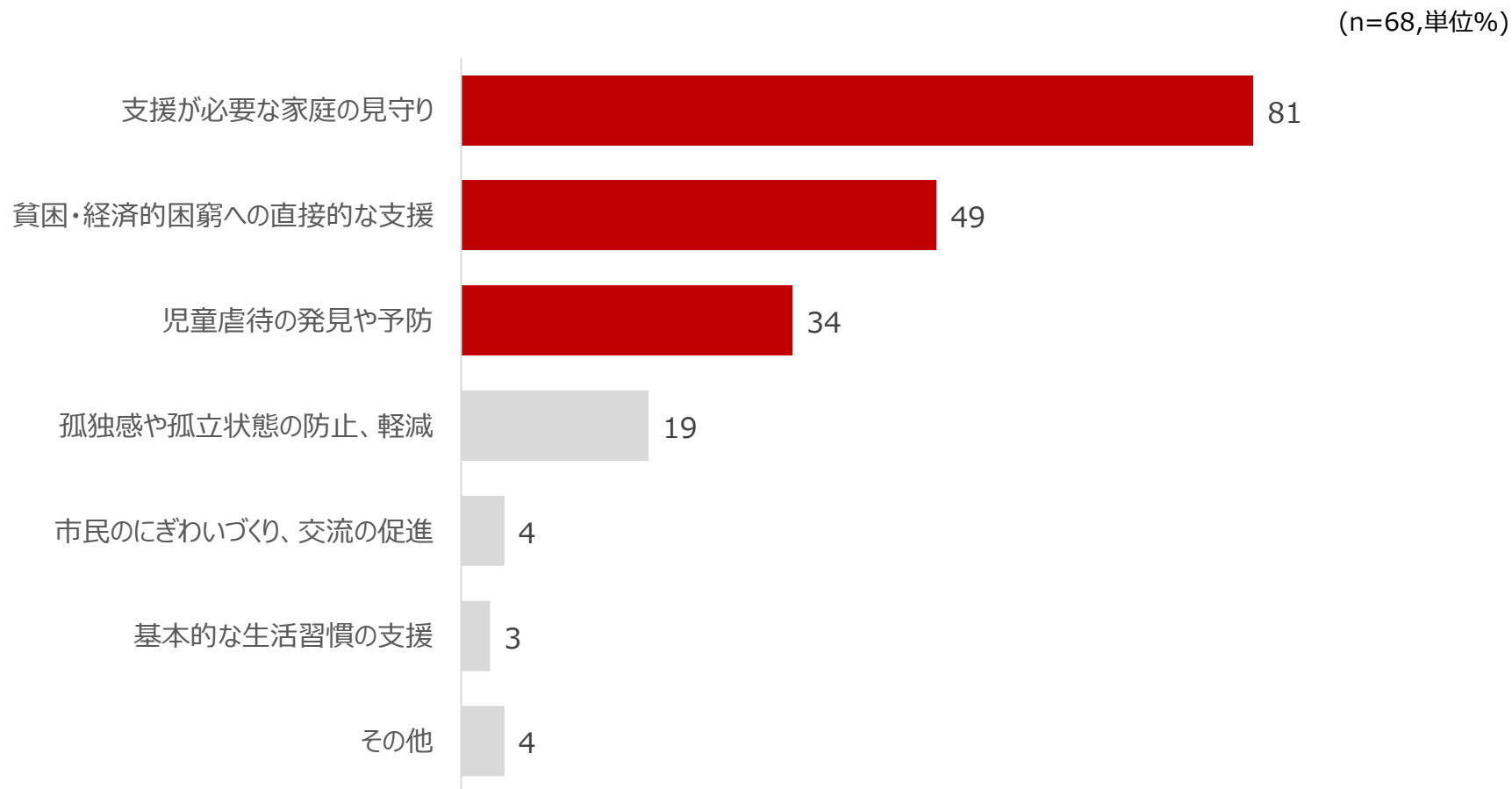


Q7.貴団体において、「こども宅食」に予算措置を講じていたり、準備していると答えの方に伺います。「こども宅食」の支援や活動に取り組みされた際の予算の財源は何でしょうか。

[設問形式：複数回答、母数：「こども宅食」導入検討・実施自治体向け]

## 「こども宅食」実施の主目的

“支援が必要な家庭の見守り” “貧困・経済困窮への直接的な支援” “児童虐待の発見や予防”が、「こども宅食」実施の主目的となる。

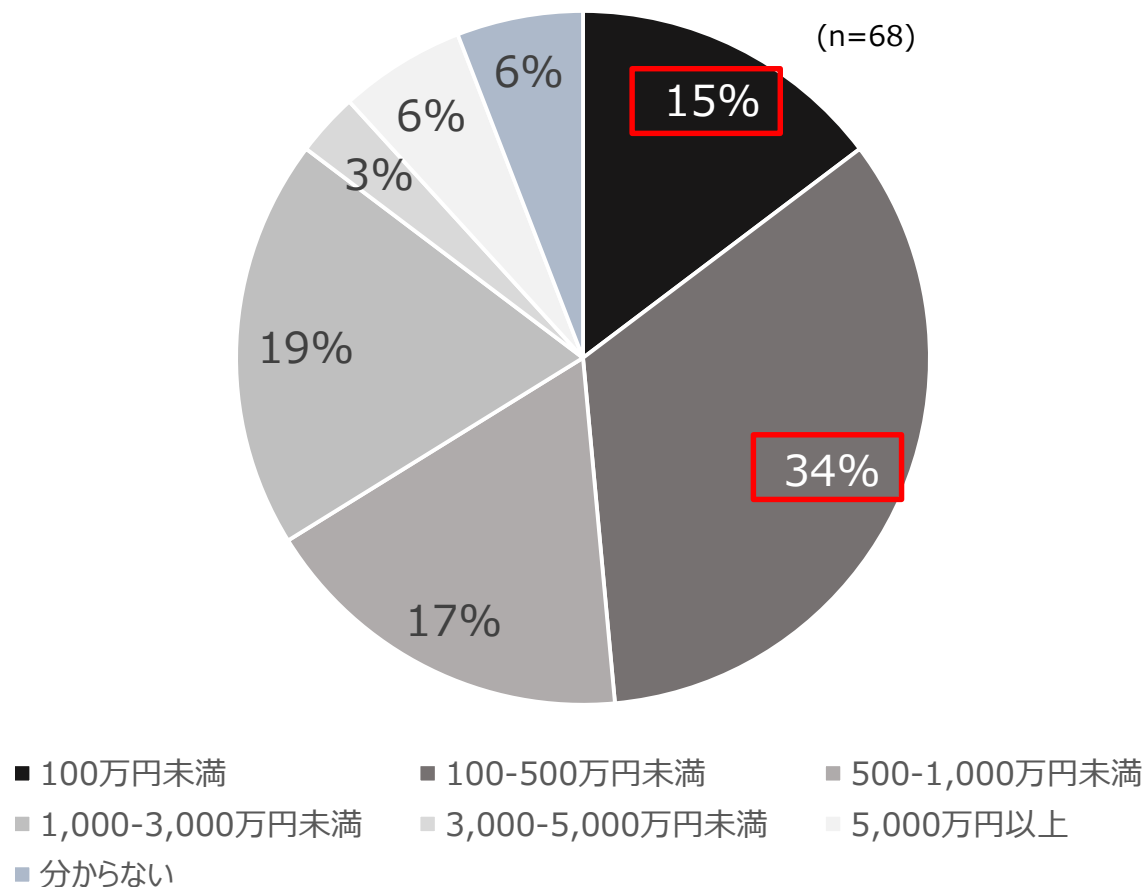


Q8.貴団体において、「こども宅食」に予算措置を講じていたり、準備していると答えの方に伺います。「こども宅食」の成果・効果としてどのようなことを期待されますか。主なものを2つまで選んでください。

[設問形式：複数回答（2個）、母数：「こども宅食」導入検討・実施自治体向け]

# 「こども宅食」実施の予算規模

「こども宅食」の年間予算規模は、500万円未満が約半数という結果となる。



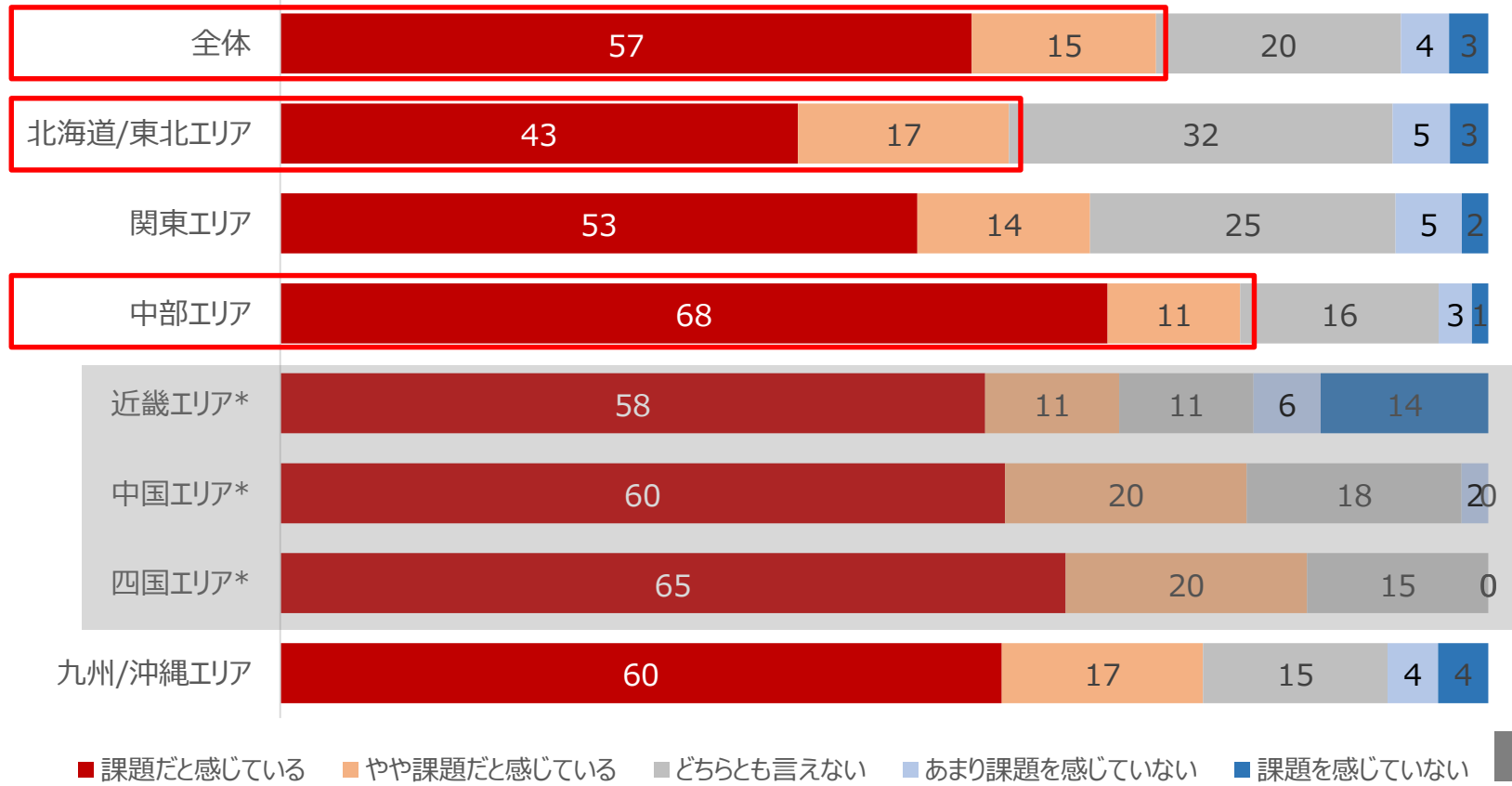
Q9.貴団体において、「こども宅食」に予算措置を講じていたり、準備していると答えの方に伺います。「こども宅食」への支援や活動に取り組まれる際の年間の予算規模はどの程度でしょうか。

[設問形式：単一回答、母数：「こども宅食」導入検討・実施自治体向け]

# 「支援拒否ケース」へのアプローチに関する課題感

「支援拒否ケース」を7割以上が課題だと感じていると回答した。  
エリア別に見ると、「北海道/東北エリア」のスコアがやや低く、「中部エリア」が相対的に高い結果となった。

(全体 n=499、北海道/東北エリア n=63、関東エリア n=91、中部エリア n=73、近畿エリア n=36、中国エリア n=45、四国エリア n=20、九州/沖縄エリア n=72、単位%)



Q12.あなたの所属部署において、このような『支援に拒否的である家庭』や『関係構築が困難な家庭』といった「支援拒否ケース」へのアプローチの課題感をお答えください。

[設問形式：単一回答、母数：全対象者]

# 「支援拒否ケース」に対する具体的な課題感と実施している取り組み

家庭内の実情把握や統合的・柔軟な支援ができない点等が課題点として挙がり、接触機会の増加や他機関と連携するなどのアプローチ方法の改良に取り組んでいると回答している。

## 代表的な課題5つ

### 断固とした支援拒否

支援を必要とする家庭ほど、支援を拒否するケースが多く、介入の糸口を見つけるのが難しい。

### こどもの状況把握の困難さ

保護者との連絡が取れない場合、こどもの安否確認や家庭状況の把握が難しい。

### 家庭への接触の難しさ

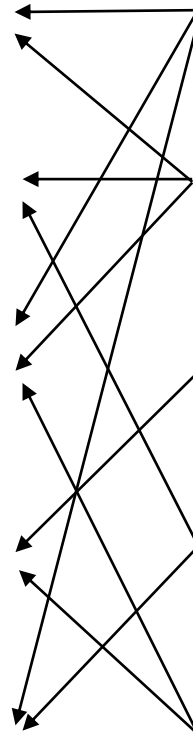
訪問や電話に応じてもらえず、家庭環境の実態を把握できない。

### 信頼関係構築の難しさ

支援者と対象者の間で信頼関係を築くのに時間がかかる。

### 多分野にわたる複合的な課題

貧困、孤立、虐待リスクなど多様な問題が絡み合い、対応が複雑化。



## 代表的な取り組み5つ

(n=288)

### 関係機関との連携

他機関や他部署と情報を共有し、連携して家庭にアプローチ。

### フードバンクや宅食支援の活用

食料提供を通じて訪問のきっかけを作り、家庭状況を確認。

### 信頼構築のための工夫

時間をかけて丁寧に接触し、対象者の困り感に寄り添った支援を実施。

### 所属機関からの見守り依頼

学校や保育園などの所属機関と協力し、こどもの状況把握を試みる。

### 柔軟なアプローチ方法の採用

食料提供、電話や手紙の利用、面談など、状況に応じた多様な方法で接触を試みる。

Q13.あなたの所属部署では前問のような「支援拒否ケース」について、具体的にどのようなことに課題に感じ、どのような取り組みをしていますか？

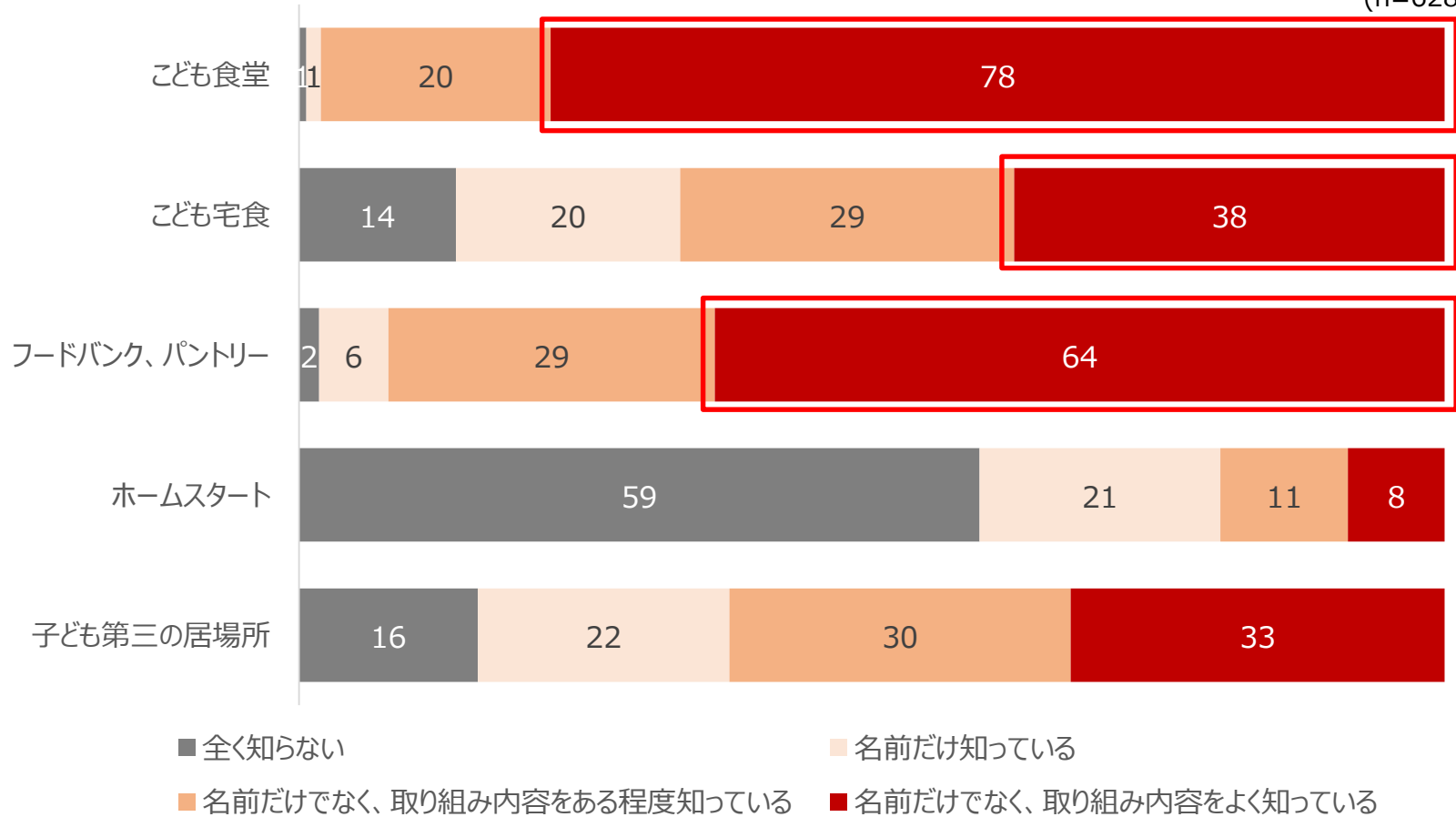
[設問形式：自由回答、母数：「支援拒否ケース」に課題感あり自治体]

# 団体調査

# 各活動の認知状況

“こども食堂”と“フードバンク、パントリー”は過半数が詳細の取り組み内容を認知しているという結果となった（こども食堂 78%、フードバンク、パントリー 64%）。“こども宅食”の詳細認知は、“こども食堂” “フードバンク/パントリー”に次ぐ結果となっている。

(n=628,単位%)



Q7.あなたは以下の各活動について、どの程度ご存じですか。  
 [設問形式：各項目単一回答、母数：全対象者]

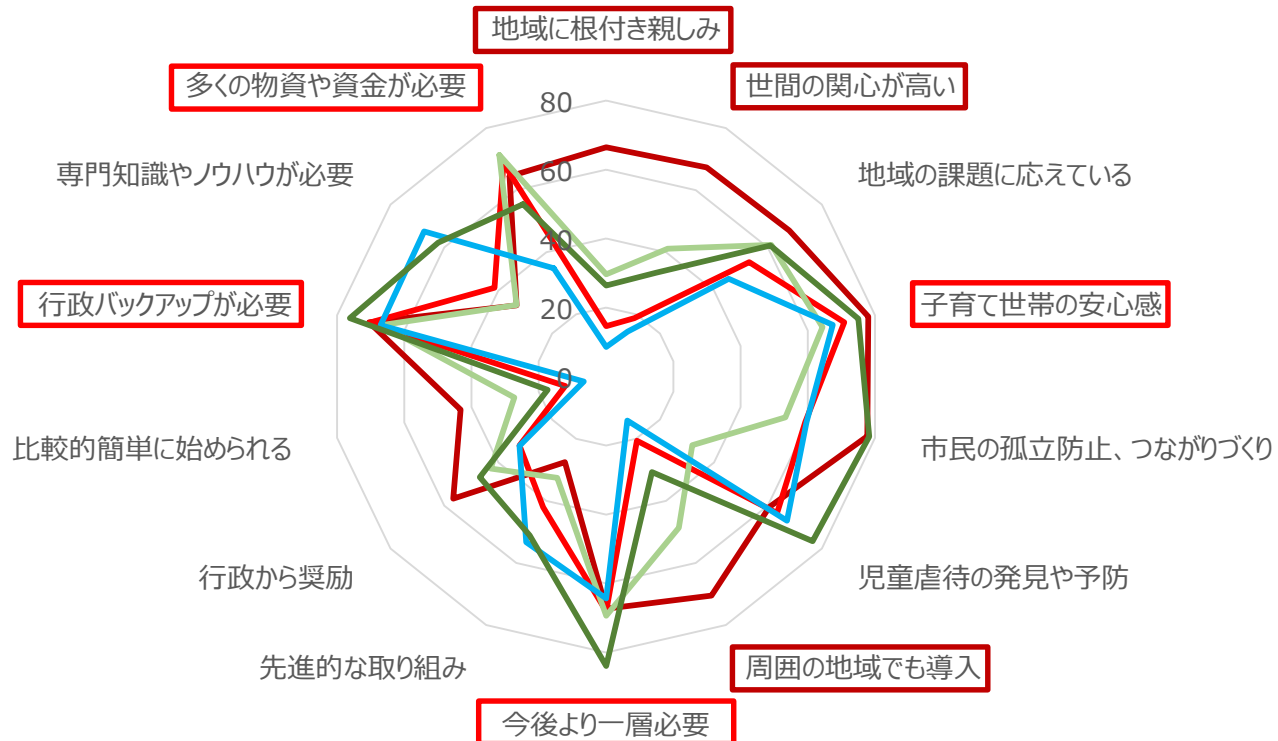


# 各活動のイメージ

高い認知状況である“こども食堂”は全体的にイメージが高い結果となった。特に“地域に根付き親しみがある”“世間の関心が高い”“周囲の地域でも導入”というポジティブなイメージが独自のイメージとして確立している。“こども宅食”は、“子育て世帯の安心感につながる”“今後より一層必要とされる活動”といった重要性を認識されている一方で、“多くの物資や資金が必要”“行政バックアップが必要”といったハードル面も上位に挙がる。

(こども食堂 n=624, こども宅食 n=542, フードバンク、パントリー n=617, ホームスタート n=255, 子ども第三の居場所 n=530, 単位%)

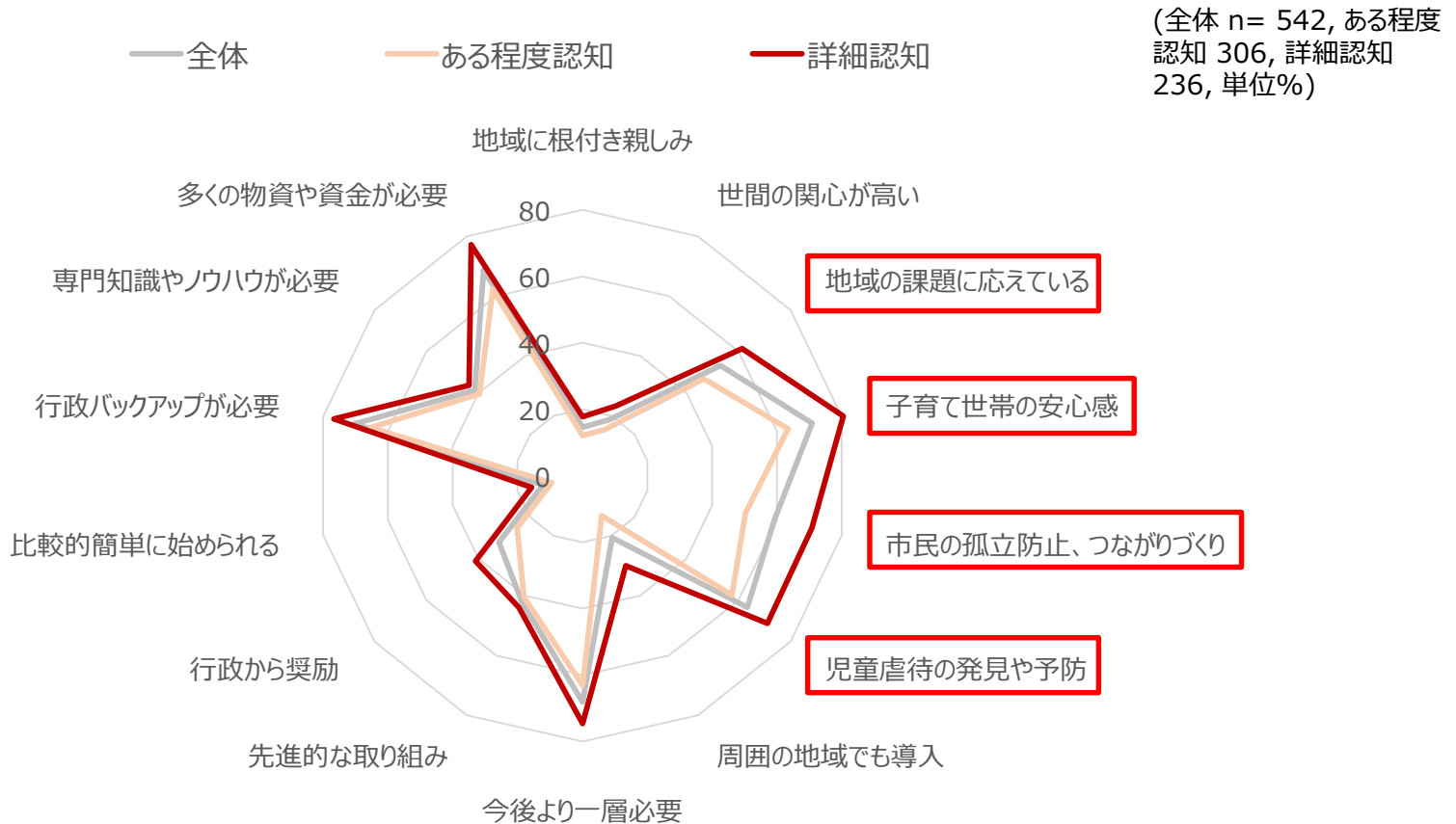
— こども食堂 — こども宅食 — フードバンク、パントリー — ホームスタート — 子ども第三の居場所



Q8.あなたがこれらの活動についてお持ちのイメージをそれぞれお答えください。  
[設問形式：各項目複数回答、母数：各活動認知者]

# 各活動のイメージ - こども宅食

こども宅食に関してより詳しく知っていると回答した対象者の方が、“子育て世帯の安心感” “市民の孤立防止、つながりづくり” “児童虐待の発見や予防” “地域の課題に込えている”といった活動のポジティブな効果をより理解している。

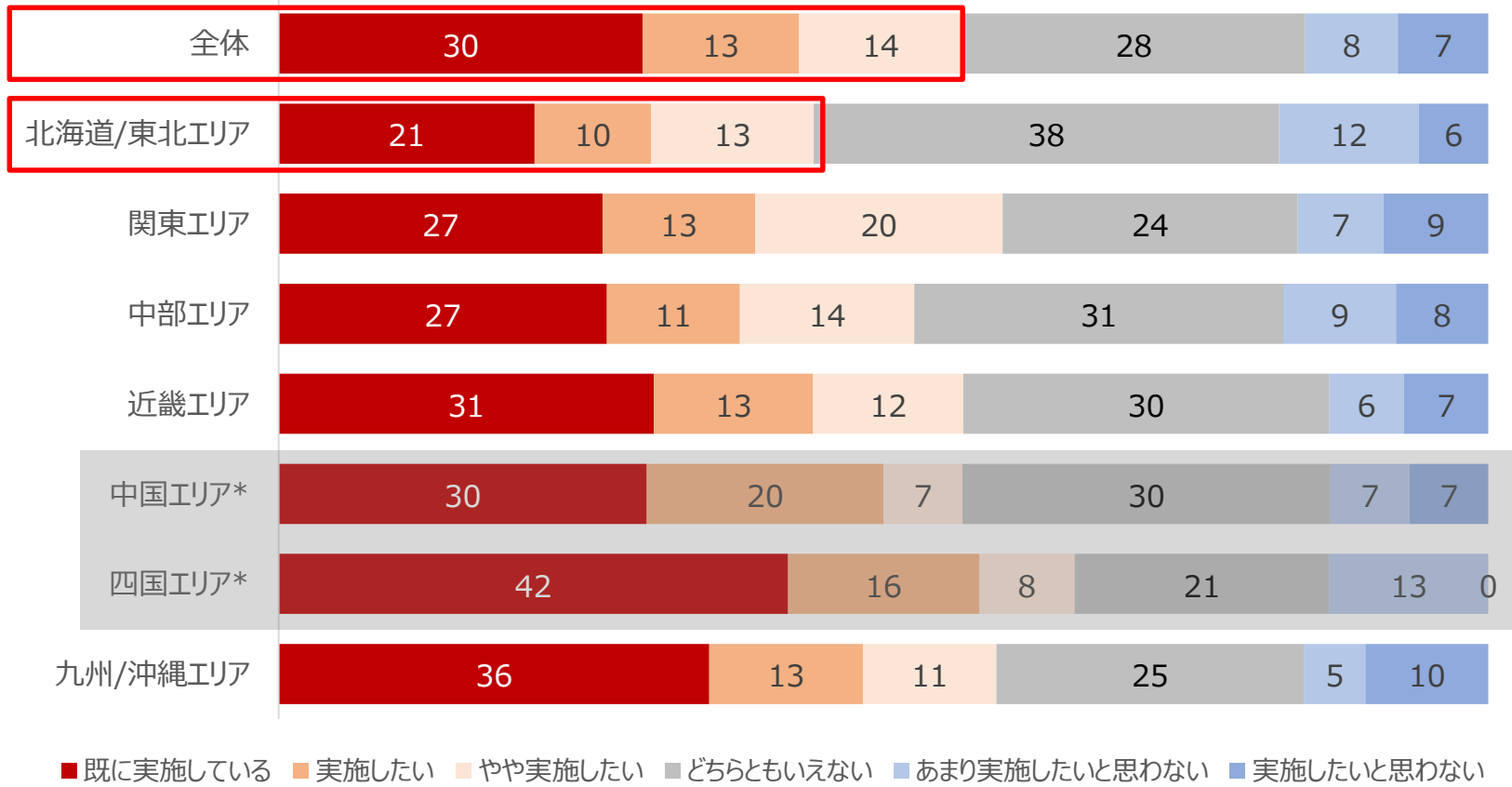


Q8.あなたがこれらの活動についてお持ちのイメージをそれぞれお答えください。  
 [設問形式：各項目複数回答、母数：活動認知者]

# 「宅食等訪問見守り」の実施状況・実施意向

全体で見ると約6割の団体は、「宅食等訪問見守り」を現在実施済みもしくは実施意向があると回答。  
エリア別でみると、「北海道/東北エリア」のスコアがやや低い結果となった。

(全体 n=628、北海道/東北エリア n=52、関東エリア n=127、中部エリア n=118、近畿エリア n=129、中国エリア n=46、四国エリア n=38、九州/沖縄エリア n=118、単位%)

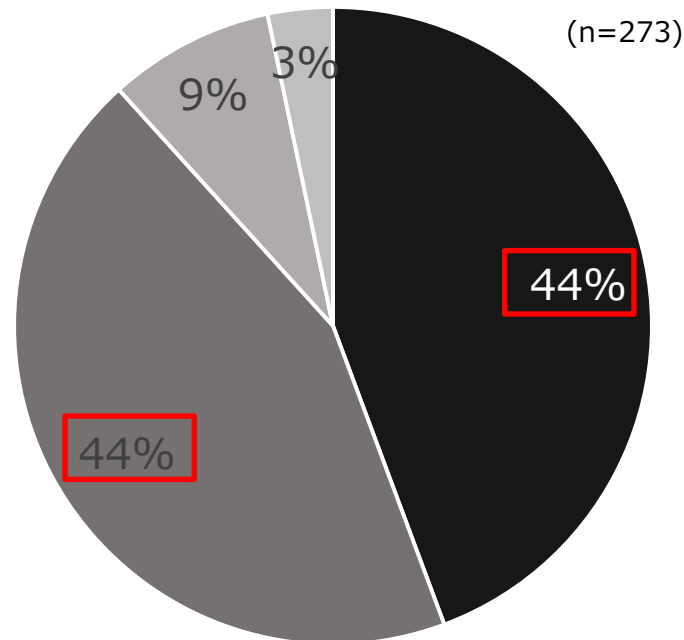


\*参考値

Q9.あなたの団体において、【宅食等訪問見守り】の実施状況や意向について最も近いものをお選びください。  
[設問形式：単一回答、母数：全対象者]

## 「宅食等訪問見守り」の未実施・非意向理由

「宅食等訪問見守り」の未実施、非実施意向理由として、課題感や負担感の大きさというハードル面と同等に、現在実施している事業への集中が上位となる。



- 実施を考えると、課題感や負担感が大きいから
- 今の事業や活動に集中・注力しているから
- 自団体の目的や目指すものとあまり一致しないから
- 特に理由はない

Q10. そのように回答された理由として、貴団体の考え方に最も近いものをお選びください。  
[設問形式：単一回答、母数：「宅食等訪問見守り」未実施・非意向団体向け]

# 実施時の課題や悩み

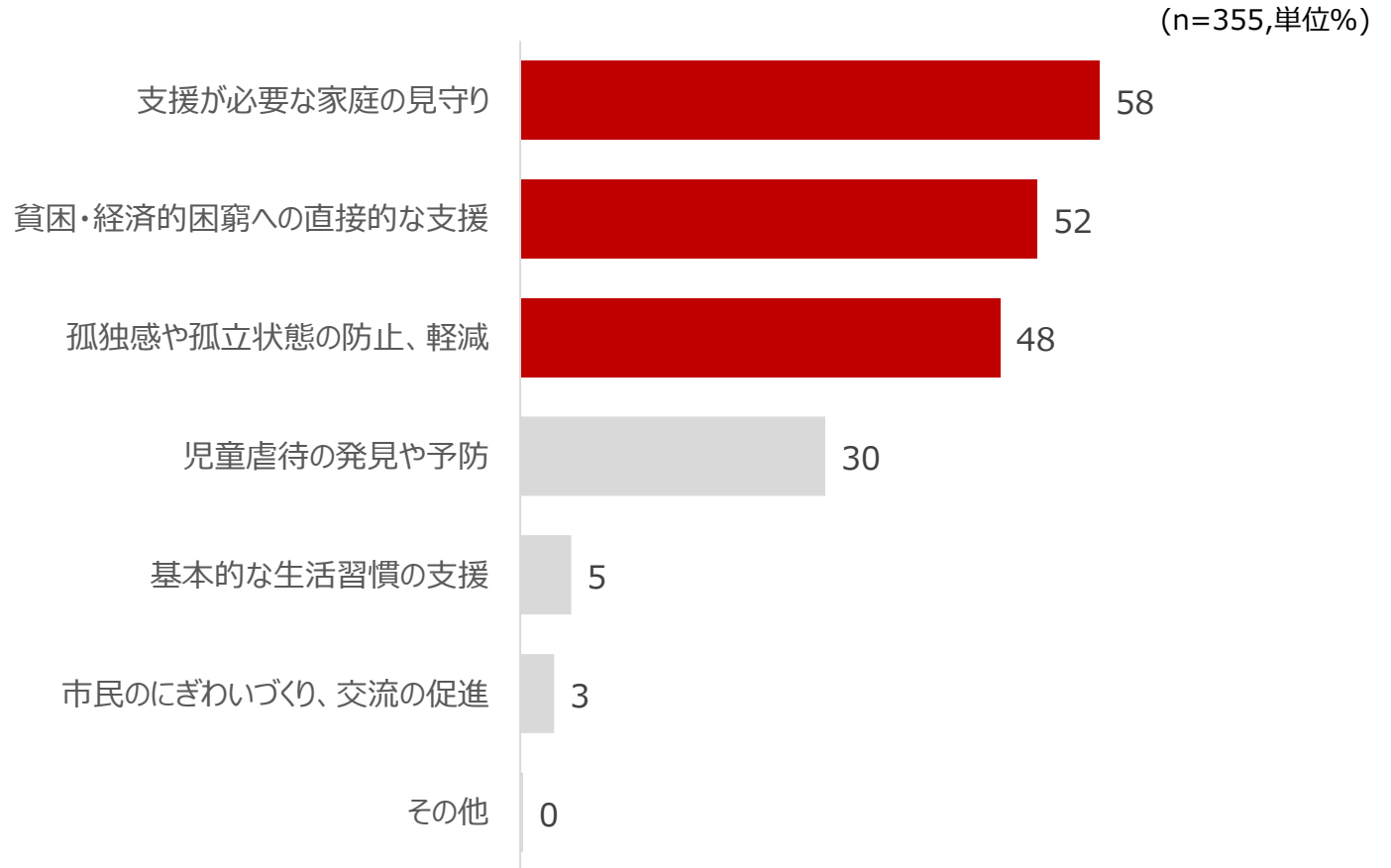
実施時の課題や悩みとして、人手/人材、資金、情報/ノウハウ不足が上位を占める。



Q11. 【宅食等訪問見守り】を実際に始めることを考えたときの課題や悩み事として、あてはまるものを全てお答えください。  
 [設問形式：複数回答、母数：「宅食等訪問見守り」意向団体向け]

# 期待する成果

期待する成果として、家庭の見守り、直接的な支援、孤立の防止/軽減が上位という結果となった。



Q12.成果・効果としてのどのようなことを期待されますか。主なものを2つまで選んでください。  
 [設問形式：複数回答（2個）、母数：「宅食等訪問見守り」実施・意向団体向け]

# 「他者からの支援を受けづらい状況にある」子育て家庭やこどもに関する課題感・取り組み

信頼関係の構築、長期的な支援ができない点等が課題点として挙がり、接触機会の確保や永続的にサポートできる体制の改良に取り組んでいると回答している。

## 代表的な課題5つ

### 信頼関係の構築

支援を受ける側との信頼関係が構築できず、関わりが途切れるケースが多い。訪問や接触の継続が重要だが、短期的な接触では難しい。

### 心理的ハードルの高さ

支援を受けることへの偏見や恥ずかしさから、支援機関や子ども食堂などの利用を躊躇する人が多い。

### 持続可能性の問題

支援者の疲弊、金銭的・体力的限界を背景に、支援の永続性が課題。

### 孤立した家庭との接点不足

行政や地域の支援団体が、支援を必要とする家庭を見つけることや、接触を持つことが困難。

### 包括的な支援の欠如

子育て家庭への支援が、物的支援だけにとどまりがちで、心理的・社会的な支援まで手が回らないケースがある。

## 代表的な取り組み5つ

(n=628)

### 気軽に参加できる場の提供

子ども食堂や地域イベントを「誰でも利用できる場」として一般公開し、支援が必要な家庭も自然に参加できるように配慮する。

### メールやLINEを活用した信頼関係の構築

対面の接触に抵抗がある場合でも、LINEやメールを通じて支援者との繋がりを構築する。

### 物品支援を入り口とした関係作り

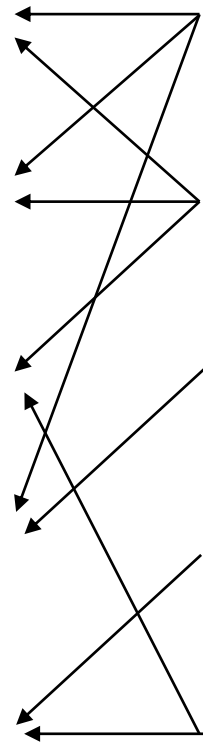
食材や日用品の提供を通じて、信頼関係を築き、その後、複合的な支援に繋げていく。

### 支援者間のネットワーク強化

多職種・多機関での連携を強化し、支援者同士の引き出しを増やす。必要に応じて、適切な支援者に繋げることが重要です。

### マンパワーの拡充と役割分担

ボランティアや地域住民の協力を得て、マンパワーを確保し、専門性を持った支援員と一般ボランティアが協働して取り組む体制を整える。



Q15.貴団体でこのような家庭や子どもたちについて、どのような事に課題を感じ、どのような取り組みをされているかお答えください。  
[設問形式：自由回答、母数：全対象者]

# 自治体調査



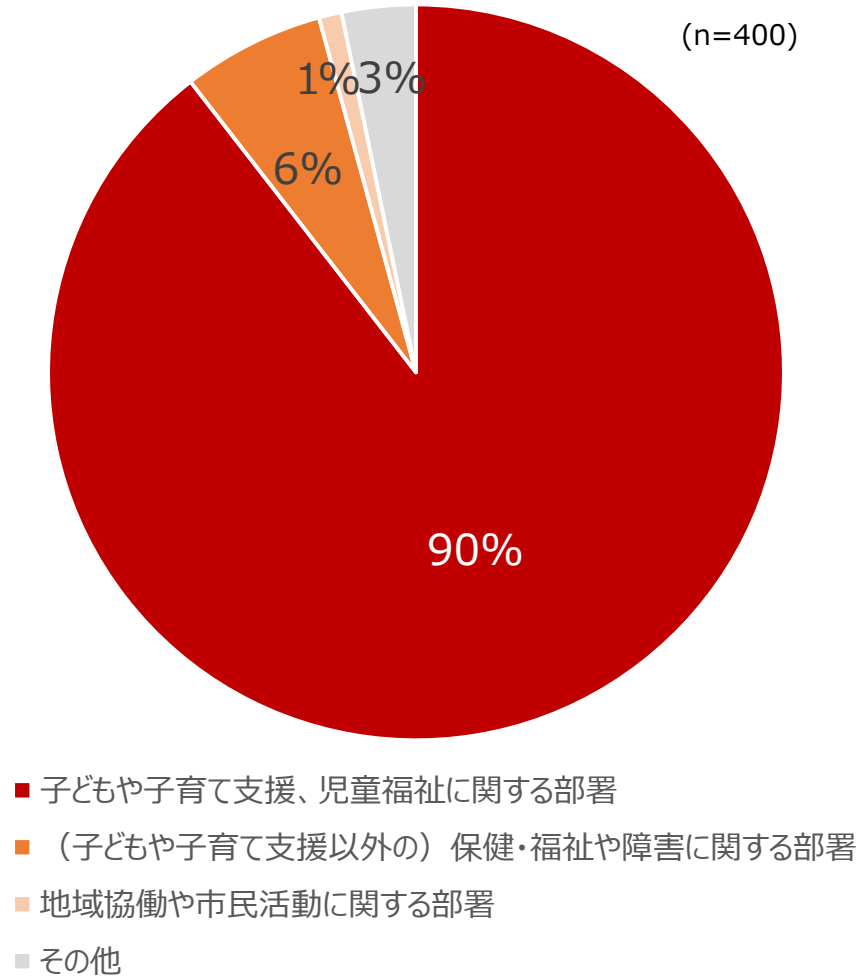
## 都道府県名

(n=400, 回答数)

北海道/ 東北エリア	63	関東 エリア	91	中部 エリア	73	近畿 エリア	36	中国 エリア	45	四国エリア	20	九州/沖縄 エリア	72
北海道	5	茨城県	1	新潟県	7	滋賀県	2	鳥取県	9	徳島県	3	福岡県	3
青森県	18	栃木県	10	富山県	3	三重県	1	島根県	10	香川県	6	佐賀県	16
岩手県	10	群馬県	1	石川県	1	京都府	6	岡山県	8	愛媛県	8	長崎県	6
秋田県	2	埼玉県	2	福井県	7	大阪府	6	広島県	10	高知県	3	大分県	3
宮城県	9	千葉県	32	山梨県	9	奈良県	12	山口県	8			熊本県	19
山形県	8	東京都	38	長野県	13	和歌山県	8					宮崎県	13
福島県	11	神奈川県	7	岐阜県	15	兵庫県	1					鹿児島県	2
				静岡県	11							沖縄県	10
				愛知県	7								

Q1. 貴団体の都道府県をお答えください。  
[設問形式：単一回答、母数：全対象者]

## 所属部署



Q3.あなたの所属部署として最も近いものをお答えください。  
[設問形式：単一回答、母数：全対象者]

# 「支援拒否ケース」に対する具体的な課題感と実施している取り組み – 回答例

(n=288)

## 代表的な課題5つ

### 支援拒否による困難

“・児童に不自然な傷やアザがあるなどの通告が入った際、保護者に状況を確認するため訪問するが、保護者が虐待の事実を認めずそれ以上の介入が難しい場合、虐待に関する予防策を保護者と考えることができない。”

### こどもの状況把握の困難さ

“支援拒否ケースは、子どもの安否や不利益な状況になっていないかを確認することが課題となる。”

### 家庭への接触の難しさ

“拒否ケースとして、行政との接触を拒否している場合や、特性や精神疾患等により人との関わりが難しい場合があります。そのような家庭は、家庭訪問しても居留守や拒絶されるなど、接触することが難しく、関係を築くことができません。”

### 信頼関係構築の難しさ

“どのような手法を使って、保護者とコンタクトを取り、信頼関係を築いていくかが課題。”

### 多分野にわたる複合的な課題

“強制的に介入できる権限がないこと。家庭が抱える問題が複合的（経済的問題・障害の問題など）であるにも関わらず、それを支援する側の体制や実力が不十分であること。”

## 代表的な取り組み5つ

### 関係機関との連携

“支援拒否ケースについては、関係機関と連携してこどもの安全を見守るとともに、学校、園、施設等と連携してできるだけ情報を把握し、支援が必要と思われる状況となった時に連携して支援できるよう努めている。”

### フードバンクや宅食支援の活用

“訪問時に食料（フードバンク）を持参し、生活困窮状況に応じて食料を渡す。”

### 信頼構築のための工夫

“相談者の状況把握のため、話しやすい雰囲気づくりから相談者との信頼関係の構築ができるよう心掛けている。相談者より聴取した内容からアセスメントを行い、必要な支援につなげる。”

### 所属機関からの見守り依頼

“所属機関とのつながりを持ち、所属機関から「子ども家庭支援センターが支援してくれる」との情報を案内してもらう。”

### 柔軟なアプローチ方法の採用

“フードドライブを活用するなどしている民間事業者と連携し必要な時に必要なものを即応的に準備し迅速に支援ができる柔軟な取組をしている。”

Q13.あなたの所属部署では前問のような「支援拒否ケース」について、具体的にどのようなことに課題に感じ、どのような取り組みをしていますか？

[設問形式：自由回答、母数：「支援拒否ケース」に課題感あり自治体]

# APPENDIX

# 団体調査

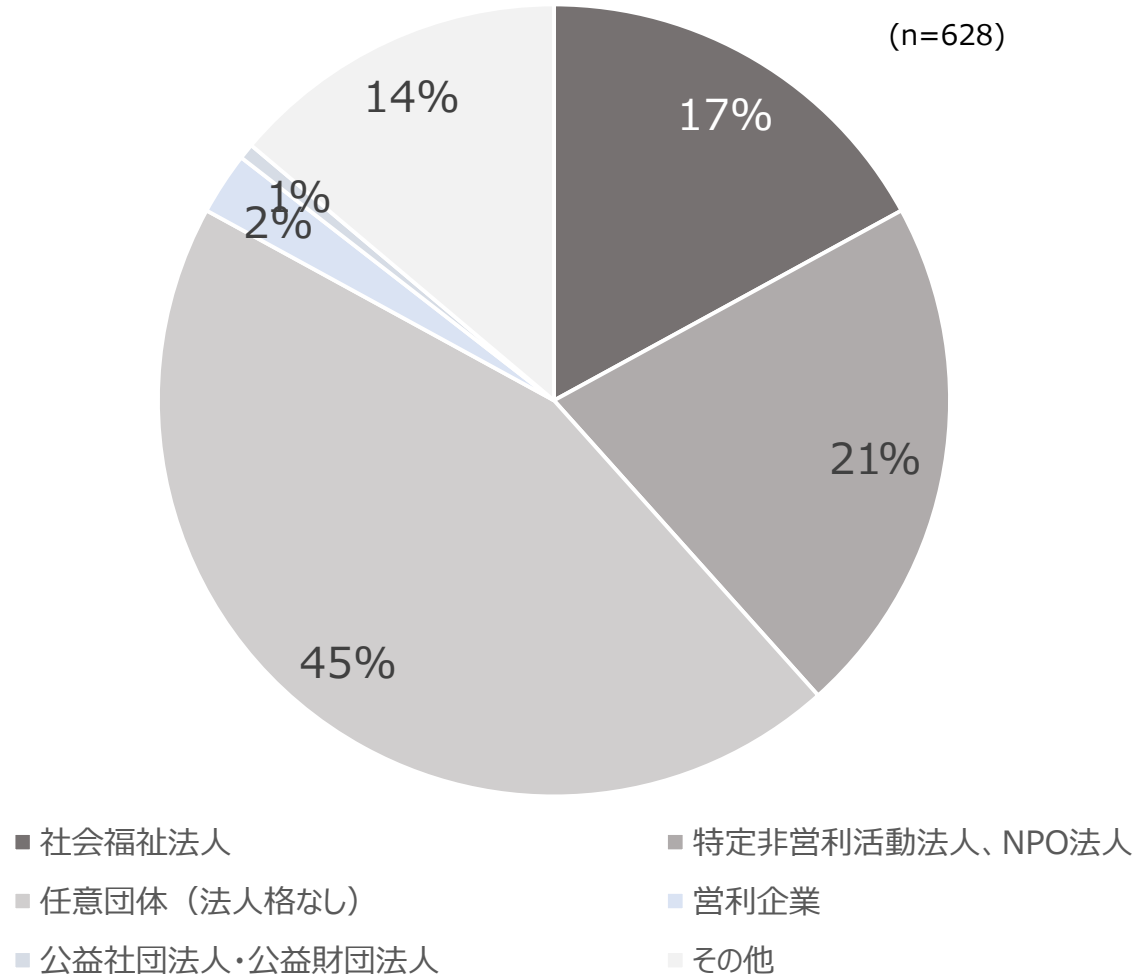
# 都道府県名

(n=628, 回答数)

北海道/ 東北エリア	52	関東 エリア	127	中部 エリア	118	近畿 エリア	129	中国 エリア	46	四国 エリア	38	九州/沖縄 エリア	118
北海道	6	茨城県	13	新潟県	36	滋賀県	17	鳥取県	1	徳島県	4	福岡県	16
青森県	22	栃木県	1	富山県	17	三重県	3	島根県	11	香川県	10	佐賀県	26
岩手県	2	群馬県	12	石川県	11	京都府	7	岡山県	7	愛媛県	9	長崎県	12
秋田県	8	埼玉県	8	福井県	14	大阪府	74	広島県	5	高知県	15	大分県	22
宮城県	2	千葉県	7	山梨県	3	奈良県	2	山口県	22			熊本県	12
山形県	3	東京都	73	長野県	3	和歌山県	21					宮崎県	11
福島県	9	神奈川県	13	岐阜県	10	兵庫県	5					鹿児島県	15
				静岡県	2							沖縄県	4
				愛知県	22								

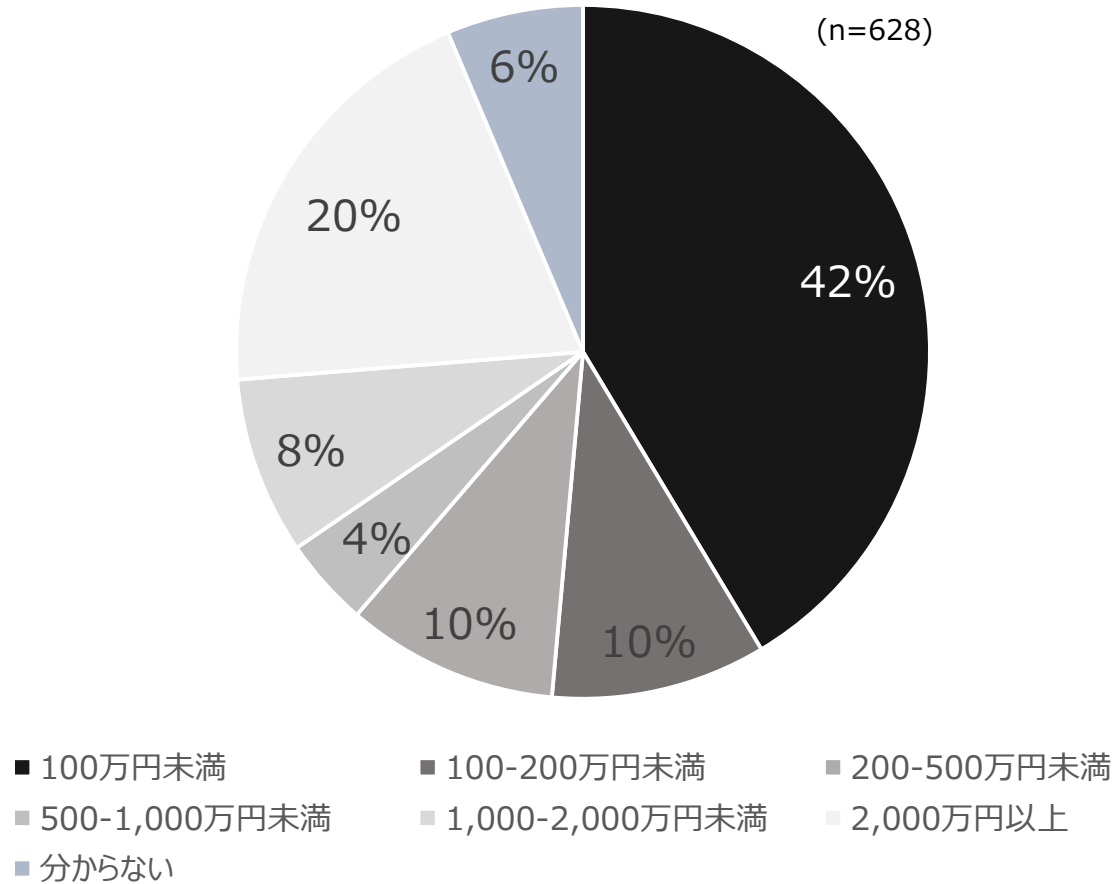
Q1. 貴団体の都道府県をお答えください。  
[設問形式：単一回答、母数：全対象者]

# 団体種類



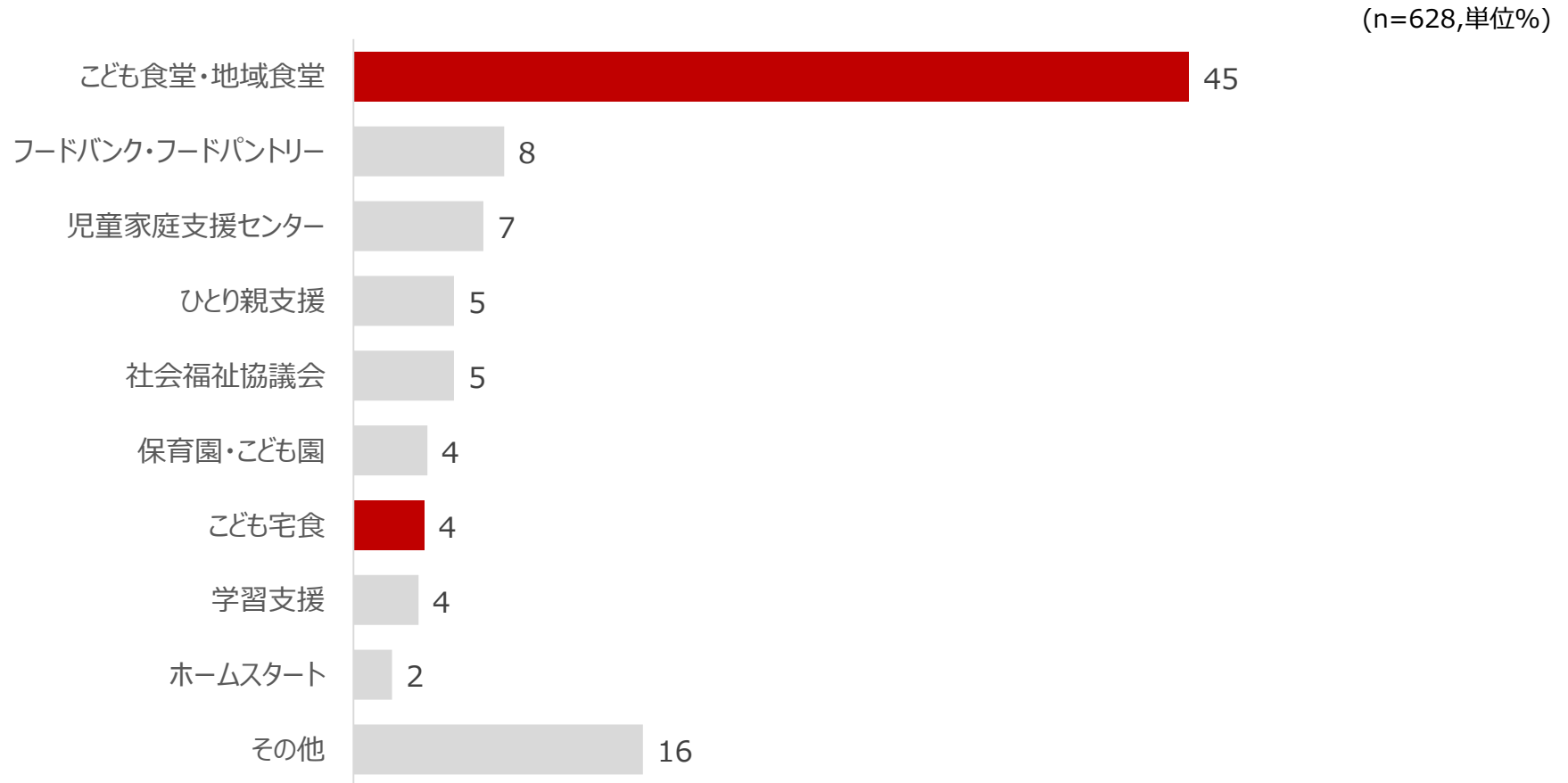
Q3.貴団体の種類としてあてはまるものを1つお答え下さい。  
 [設問形式：単一回答、母数：全対象者]

# 活動規模



Q4.貴団体の年間の総事業費（概算で構いません）としてあてはまるものを1つお答え下さい。  
 [設問形式：単一回答、母数：全対象者]

# 主要事業



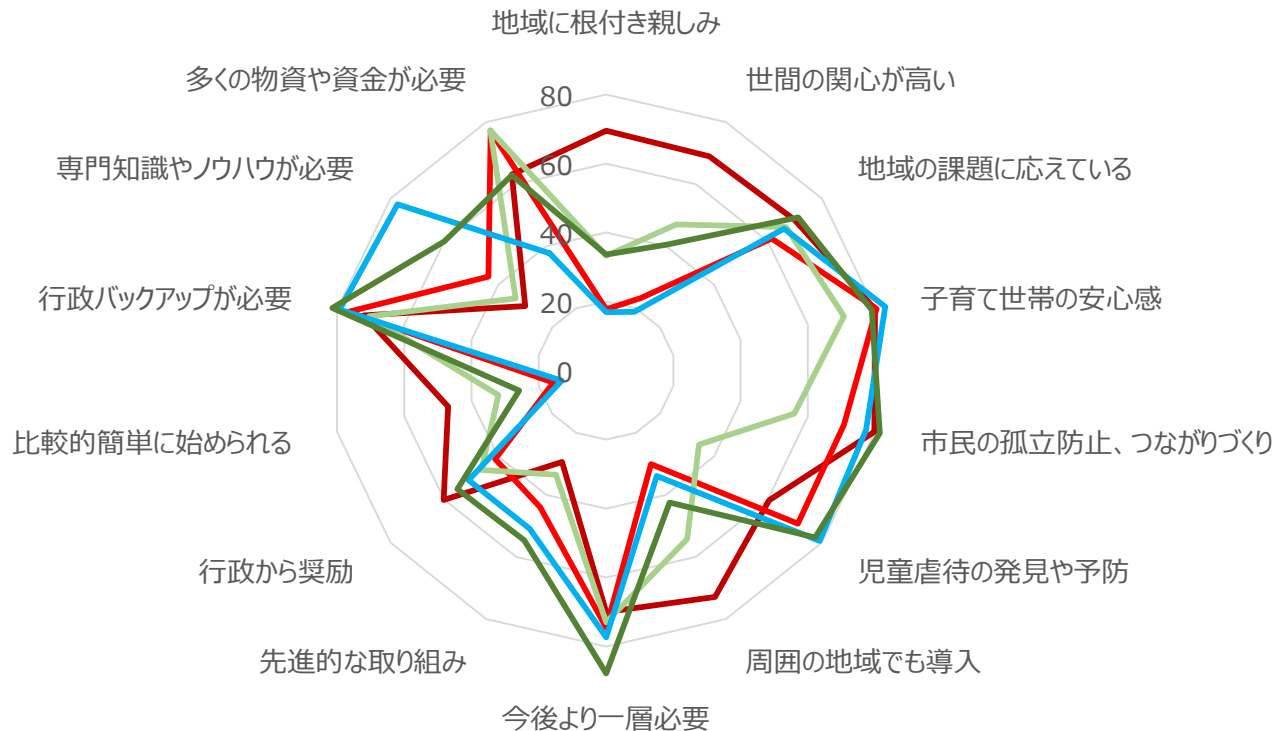
Q5.貴団体の取り組まれる活動のうち、最も主要な事業を1つだけお答えください。  
 [設問形式：単一回答、母数：全対象者]



# 各活動のイメージ - 母数 各活動詳細認知者

(こども食堂 n=490, こども宅食 n=236, フードバンク、パントリー n=400, ホームスタート n=53, 子ども第三の居場所 n=205, 単位%)

— こども食堂 — こども宅食 — フードバンク、パントリー — ホームスタート — 子ども第三の居場所



Q8.あなたがこれらの活動についてお持ちのイメージをそれぞれお答えください。  
[設問形式：各項目複数回答、母数：各活動詳細認知者]

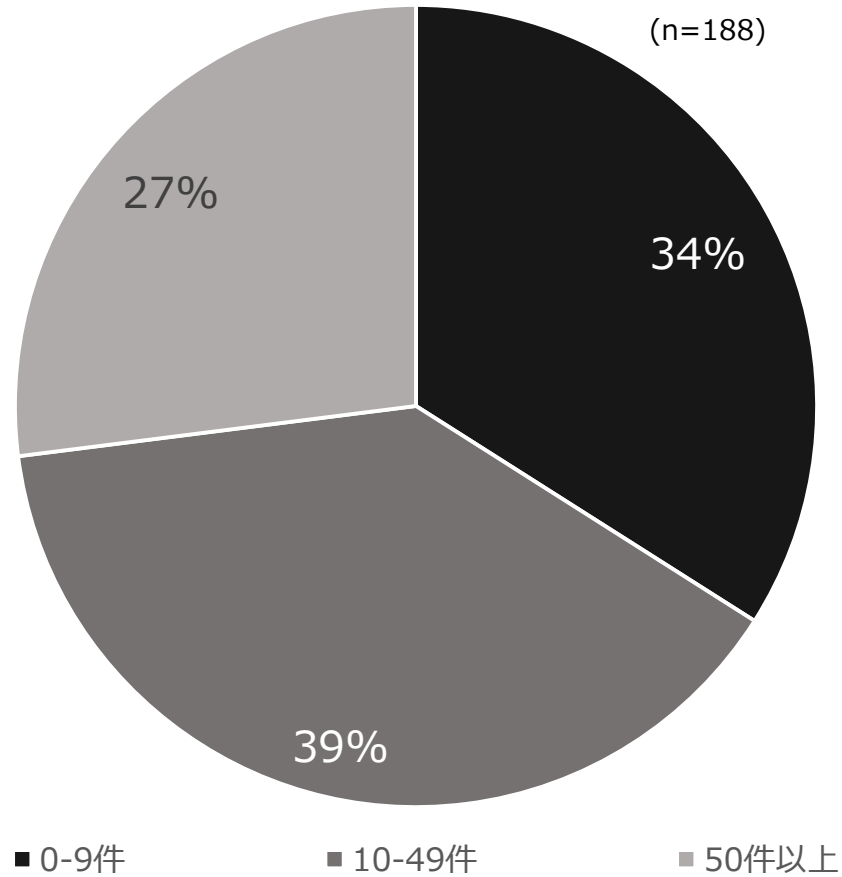
# 各活動のイメージ - こども宅食



(全体 n= 542, 実施者 182, 実施意向者 144, どちらともいえない139, 非実施意向者 77, 単位%)

Q8.あなたがこれらの活動についてお持ちのイメージをそれぞれお答えください。  
[設問形式：各項目複数回答、母数：各活動認知者]

## 支援世帯数



Q13. 【宅食等訪問見守り】として1か月で支援している世帯数は何世帯でしょうか。世帯数をおおよその数字でお答え下さい。  
[設問形式：数値回答、母数：「宅食等訪問見守り」実施団体向け]

# 「他者からの支援を受けづらい状況にある」子育て家庭や子どもに関する課題感・

## 取り組み - 回答例

### 代表的な課題5つ

#### 信頼関係の構築

“そのようなご家庭は支援機関とつながることを好まず、家庭の中での困り感が少ない場合や、何に困っているか整理できていないことも多い。”  
 “障害を持つご家族なので、さらに信頼関係を築くまで時間を要すると思っています。”

#### 心理的ハードルの高さ

“北海道内全域を対象とし子ども宅食を実施しているが、過疎化が進む地域に住む家庭ほど、生活逼迫や家庭環境の悪化等、行政や公的機関に相談したいと思った時、相談先に知人や友人が勤めており、人の目や噂になる事が怖いという心理的要因が起り、困り事を溜め込んでいるケースが見られた。”

#### 持続可能性の問題

“介入しづらく、支援を継続するのが難しい。”  
 “ニーズがあるが家族が放任している子どもへの継続的なかわりが困難である。取り組み、他機関と連携してのリーチアウトを行うが、継続が難しい。”

#### 孤立した家庭との接点不足

“地域から孤立しがちで児童の養育状況も不明なことが多い”  
 “つなぎ先が十分にない。孤立しているご家庭の状況は孤立しているが故、地域の市民や、議員でさえ実情が伝わっていない。”

#### 包括的な支援の欠如

“支援に結び付きにくい家庭では、特に養育者の方が育つ過程で、様々な課題を抱えていたケースが多いように思われる。”

### 代表的な取り組み5つ

(n=628)

#### 気軽に参加できる場の提供

“弊会で関わる全ての人に対して日常的な接点づくりを大切にしている、特別な場ではなく、地域のイベントや集まり等を通して、自然な形でつながる機会提供を行っています。支援を受けることが重荷にならないよう配慮し、フラットな関係性、家庭や子どもたちとの信頼関係を少しずつ築いています。”

#### メールやLINEを活用した信頼関係の構築

“毎月の食材等のお届けと共に、各支援家庭とLINEでつながり、ていねいに時間を掛けてやり取りをおこない、信頼関係を築くようにしています。”  
 “無理強いをせずに、傾聴と丁寧な声かけを行いながら信頼関係を構築できるよう関わっています。”

#### 物品支援を入り口とした関係作り

“日ごろから個別訪問で声をかけながら、コツコツと信頼関係を築き、物品の支援については家庭の発信を待つのではなく「こんなものがあるけど次の機会に持ってきてもいいですか？」などの声をかけている。また必要な場合は様々な機関に同行するなどしている。”

#### 支援者間のネットワーク強化

“各機関（例えば、市役所、学校、放デイ、民生委員等）と、定期的にケース会議を実施しながら、各機関の役割分担や、関わりのプロセス等を大事にしながら対応している。”

#### マンパワーの拡充と役割分担

“「子どもたちのためになにかしたい」と思っている市民も少なくない。実情を知る→発信する（アボドケイト）→仲間を増やす→支援される人も支援側に回るような文化を醸成するといったことが必要だと感じている。”

Q15.貴団体でこのような家庭や子どもたちについて、どのような事に課題を感じ、どのような取り組みをされているかお答えください。  
 [設問形式：自由回答、母数：全対象者]

A grayscale, blurred photograph of a woman and a child sitting at a table. The woman is on the right, and the child is on the left. The child's hands are raised, and the woman's hands are also visible, suggesting they are engaged in an activity. The word "END" is overlaid in the center of the image in a bold, black, sans-serif font.

**END**